

令和元年度第2回亀岡市文化財保護委員会

日 時 令和元年12月26日 午前10時から正午

場 所 亀岡市役所 6階 602会議室

委員出席者

安藤 委員
井上 委員
井本 委員
鵜島 委員
加藤 委員
豊田 委員
山下 委員
長谷川 委員
以上 8名

欠席委員

藤井 委員
深町 委員

事務局

神先 教育長
片山 教育部長
鵜飼 歴史文化財課長兼文化資料館長
松永 歴史文化財課副課長兼文化財係長事務取扱兼文化資料館副館長
土井 歴史文化財課主幹兼文化資料館主幹
八木 資料館企画係長兼文化資料館主幹
樋口 文化財専門官
渡部 主事
上甲 学芸員
大欠 学芸員
近藤 学芸員

傍聴者

なし

1 開 会

出席委員は過半数のため、条例第17条第2項により会議が成立

2 教育長挨拶

3 「亀岡市指定文化財候補」の諮問について

亀岡市文化財保護条例（昭和43年条例第43号）第6条第1項の規定に基づき次の文化財を指定するにあたり、亀岡市文化財保護委員会に諮問を行った。

指定しようとする文化財

○有形文化財（彫刻）

- ・愛宕神社木造師子狛犬（一対）（鎌倉時代 13世紀前半）
- ・愛宕神社木造師子狛犬（一対）（鎌倉時代 13世紀後半）

○有形文化財（古文書）

- ・明智光秀書状（戦国時代 16世紀後半）

○無形民俗文化財

- ・サンヤレ（火伏せの行事）

4 現地確認

諮問を行った文化財のうち、愛宕神社の師子狛犬及び明智光秀書状の現地確認を行った。

愛宕神社にて事務局説明（愛宕神社師子狛犬）

委 員：この狛犬は胡粉塗なのでしょうか

事務局：それは後の時代の彩色が残っているのではないかと思います。一時期、部材が外れかけたことがあったようでして、木屎漆こくそといって、漆を練ったものである程度隙間を埋めたりとか、虫食いがひどかった部分には上から補修したりした痕跡が残っています。

委 員：補修した部分はどのようなところでしょうか。

事務局：黒っぽく見えている部分が漆を塗られている部分です。早い時期に湿気か虫食いで穴が広がったので、それを塞ぐために漆を塗ってあります。

委 員：鎌倉時代前半の師子狛犬の埋め木がすごいですね。

事務局：部分的に埋め木がされていたり、漆が塗られたりはしていますが、比較的保存状態は良いかと思います。

委員：足の形が2対で違いますね

事務局：鎌倉時代後半の師子狛犬はいかにも筋肉質な動物らしい脚をしておりますが、濡縁のものはあまり筋肉の表現が巧みではなくて、犬とかライオンというよりは、人間の脚に近いような、おもしろい表現となっています。濡縁のものは平安時代末から鎌倉時代前半にかけての個性的な作風としておそらく丹波地域で作られたもので、鎌倉時代後半のものは京都で出来上がった新しい典型的な師子狛犬がここに伝わってきたものと考えられます。同じ師子狛犬といえども、時代の流行、地域の流行が表れてくるという点で非常に特徴的な存在と考えられます。

文化資料館にて事務局説明（明智光秀書状）

委員：虫食いがありますが、お預かりした時からこういう状況でしょうか

事務局：その状況だったと思います。お預かりした経緯としては、前文化資料館長が以前に五苗財団から主な資料をお借りしたときの一つということだと思えます。その後すぐに五苗財団がお持ちの蔵が雨漏りするというところで、緊急避難でこちらの方に古文書を20箱くらいお預かりして、後に寄託資料ということで契約しています。ですので、それまでの保存は難しかった状態なのかもしれませんが、その中で残った書状ということです。

5 報告事項

事務局からその他意見等の有無の確認の後、教育部長挨拶及び会議の終了を伝え閉会とする。

以上